

一橋大学 経済学研究科 上級マクロ経済学  
2010 年度夏学期 前半

担当 経済研究所 阿部修人  
[nabe@ier.hit-u.ac.jp](mailto:nabe@ier.hit-u.ac.jp)  
<http://www.ier.hit-u.ac.jp/~nabe>  
Phone: 042-580-8347  
研究室:経済研究所 3F

今年度の上級マクロ経済学は、前半は阿部修人が、後半は深尾京司と渡辺努が担当する。前半は主に基本的な動学最適化問題の解法および様々な基本モデルの紹介を中心とする。金融政策や貨幣、世代重複モデル、New Keynesian モデル等は後半にカバーされる予定である。

**受講に必要な前提知識:** 中級レベルのマクロ経済学・ミクロ経済学・および基礎的な計量経済学を習得していること。また、多変量解析の基礎(偏微分)および線形代数(行列演算および固有ベクトル)の知識を有していること。

**受講対象者:** 博士後期課程に進学を計画している大学院修士課程一年生を主な対象とするが、意欲のある学部生、就職予定の修士課程二年、博士後期課程の学生も歓迎する。

他の講義との関係: 上級マクロ経済学は大学院レベルのマクロ経済学を学習する上で必要な基本知識の習得を目標としている。より専門的な内容は複数開講されている応用マクロ経済学および金融経済論 I,II でカバーされる。したがって、マクロ経済学にかかわる分野で本格的に研究を行う予定のものは他の講義も積極的に受講することが望ましい。また、マクロ金融ワークショップへの参加も歓迎する。

**テキスト:** D.Romer, (2006) *Advanced Macroeconomics, Third Edition*, New York: MacGraw-Hill.

講義は必ずしもテキストに沿わず、むしろ、適宜配布する予定の講義ノートを主に使用する。しかし、テキストの該当箇所を事前に読むと講義の理解は容易になるはずである。講義ノートの配布は私の web で行うので、たまに Check すること。

講義では Romer の教科書では十分に議論されていないトピックも多少カバーする予定である。具体的には Dynamic Programming および Incomplete Market(予定)の回である。参考文献の[1], [4], [5]のいずれか(あるいは全て)で必要とあらば補完すること。

## 評価方法

宿題を数回課し、中間試験の成績と合わせて前半の成績をつける。宿題の weight は 20% ほどの予定。前半と後半の成績を単純平均し最終的な評価とする。

## TA:

新関剛史: [niizeki21@hotmail.com](mailto:niizeki21@hotmail.com)  
チャン ラン アン ズーン: [anhduongtl@gmail.com](mailto:anhduongtl@gmail.com)

実習を週に一度、水曜の午後の予定(場所と時間は後で指定)に開くので、出席することを強く薦める。

**Office Hours:** 阿部:月曜の授業後、四時限目

### コンピュータープログラム

本授業では動学モデルを解く際にコンピュータープログラムを使用し数値的に解を導出することも計画している。使用するプログラムは行列演算ソフトの Matlab であり、総合情報処理センターの端末にインストールされている。総合情報処理センターには、その他にも E-Views、TSP、Stata 等の統計処理ソフトがインストールされているので積極的に使用してもらいたい。

### 講義計画(予定)

- 1 Introduction
- 2 Chapter 8-1 Investment 動学モデル入門
- 3 Chapter 8-2 Investment
- 4 Chapter 1 The Solow Growth Model
- 5 Chapter 2-1 Ramsey-Cass-Koopmans
- 6 Chapter 2-1 Ramsey-Cass-Koopmans(2)
- 7 Dynamic Programming 入門
- 8 Chapter 4-1 Arrow-Debreu Equilibrium and Real-Business-Cycle Theory
- 9 Chapter 4-2 Arrow-Debreu Equilibrium and Real-Business-Cycle Theory (2)
- 10 Chapter 4-3 Arrow-Debreu Equilibrium and Real-Business-Cycle Theory (3)
- 11 Chapter 7 Consumption
- 12 Chapter 7 Consumption(2)
  
- 13 中間試験 5月31日 筆記試験

参考文献: マクロ経済学全般

[1] R.J.Barro, and X. Sala-I-Martin, (2003) *Economic Growth, second edition*, New York: MacGraw-Hill.

この本の Appendix on Mathematical Methods は、動学分析入門に適している。

[2] M. Wickens (2008) *Macroeconomic Theory*, Princeton University Press.

Blanchard and Fisher (1989)による古典的な教科書の現代版を目指したと著者が書いている通り、基本的な成長モデルから資産価格, New Keynesian 的な DSGE や開放経済にいたるまで、現在のマクロ経済理論における様々なトピックを簡潔にまとめている。ただし、数値解析等については触れていない。

[3] J. Adda and R.Cooper, (2003) *Dynamic Economics*, MIT University Press.

[2]や[5]の Ljungqvist and Sargent (2004)と比較し、扱っている内容は少ないが簡潔で読みやすく、計量分析や数値解析に関してもページが割かれている。コンピュータープログラム

[4] O.J.Blanchard and S.Fischer, (1989) *Lectures on Macroeconomics*, Cambridge, Massachusetts: The MIT Press.

アメリカ東海岸で主に使われた古典的テキスト。多少古いが、80年代後半までのマクロ経済学に関してかなり包括的に説明されており辞書代わりに便利。数値解析を駆使するようになる前のマクロ経済理論の分析手法を習得するのに適している。

[5] L.Ljungqvist and T.J.Sargent, (2004) *Recursive Macroeconomic Theory*, Cambridge, Massachusetts: The MIT Press.

Dynamic Programming を用いた、近年のマクロ経済学の膨大な Frontier を解説している上級テキスト。マクロ経済学を専門にする学生にとっては必須。第二版になり、カバーしているトピックが増え、説明も丁寧になった。特に、不完備資本市場に関心のある者にとっては、まず手に取るべきものである。ただし、Keynesian 的な視点はほとんど存在しない。

[6] 齊藤誠 (2006) 「新しいマクロ経済学」新版 有斐閣

Romer (2006)と Ljungqvist and Sargent (2004)の中間に位置するすぐれた教科書。補論で基本的な数式展開が丁寧に説明されている。

[7] T.J. Sargent, (1987) *Dynamic Macroeconomic Theory*, Harvard University Press.

基本的な Dynamic Programming および動学モデルの古典的教科書として定評があり、いまでも極めて優れた内容である。

[8] R.Farmer, (2002) *Macroeconomics of Self-Fulfilling Prophecies Second Edition*, MIT University Press.

動学一般均衡に関する入門書、とくに indeterminacy という視点を中心に簡潔に解説されている。

[9] John B. Taylor and Michael Woodford Ed. [1999] *Handbook of Macroeconomics* 1A, 1B, and 1C, North-Holland.

すこし古くなったが、マクロ経済学を専門とする研究者になるのであれば揃えていて損はない巨大なサーベイ論文集である。先行研究を探すときには、まずはHandbookシリーズのサーベイから始めると効率がよい。